

平成 27 年度第 2 回総合教育会議 議事録

開催日時：平成 27 年 8 月 20 日（木） 9：00～11：00

傍聴者：5 名 報道関係者：2 名

次第

- 1 開会
 - 2 市長あいさつ
 - 3 浜松市の教育及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の策定について
 - 4 意見交換「浜松市におけるいじめの実態と防止等の取り組みについて」
 - 5 閉会
-

1 開会

市長、教育委員（5 名）全員出席

2 市長あいさつ

（鈴木市長）

本日は、会議の前半で本市の教育・文化振興の指針となる大綱について議論し、後半でいじめ問題について議論したいと思います。

大綱については、今後の本市の教育・文化振興の指針となる重要なものであり、皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

また、本市では、平成 26 年 3 月に「いじめ防止基本方針」を策定し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの増員などを行い、いじめ問題に取り組んでまいりました。そのような中、岩手県で中学生の自殺があり、本市においてもいじめ問題の根絶に向けて今一度考えておく必要があるのではないかと思います。

3 浜松市の教育及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の策定について

（事務局）資料 1 説明 質問なし

＜大綱の体裁について＞

（児玉教育長）

大綱の体裁について、コンパクトで骨太のものとなるよう A4 用紙 1 枚にまとめることが事務局から提案されましたが、皆様いかがでしょうか。

（太田委員長）

A4 用紙 1 枚で、コンパクトで分かりやすく一目見て訴えられるものしたいと思います。

（渥美委員）

委員長の意見に賛成です。骨太であることは非常に重要なことだと思います。

(児玉教育長)

A4 用紙 1 枚にまとめ、コンパクトで骨太のものにする方向でご確認いただきました。

<大綱の形式について>

(児玉教育長)

大綱の形式について、前回の総合教育会議で平成 27 年度から 31 年度の 5 年間に期間とすることとなりましたが、5 年間に意識した内容とするか、理想像などの普遍性を意識した内容とするかについて皆様のご意見をお聴きしたいと思います。

(太田委員長)

いろいろなことが目まぐるしく変わる時代ですし、この会議もスタートしたばかりですので 5 年のスパンとしたいです。

(鈴木委員)

私は 5 年という短いスパンではなく、教育委員会と市長事務局の各課の計画をまとめる大綱ということで考えると、普遍的なものとし、そこから各課の計画につながった方が市民にとって分かりやすいのではないかと思います。

(石田委員)

5 年という考えもありますが、教育は長い目で見る必要があります。5 年ですと具体的な施策になってしまうので、もう少し先を見て作っていきたいです。

(渥美委員)

私は皆様の意見には、大きな違いがあるわけではないと考えます。大綱は、普遍的なものを理想として作られるべきで、5 年というのは 5 年後にもう一度見直す機会を持つという意味になるかと思っています。

(太田委員長)

先ほどの私の発言の意図も、5 年で検証・振り返りが必要であるという意味です。

(鈴木市長)

どこかで検証する時期は要りますので、まずは 5 年で一度見直し、特に変える必要がなければそのまま大綱を継続するという理解になるかと思っています。

(児玉教育長)

非常に変化の激しい時代ですので、普遍的な内容を含めながら、5 年後に見直しを行い、そのまま継続することもあり得るという視点で考えていく方向でお願いしたいと思います。

<大綱の内容について>

(児玉教育長)

大綱の内容について、重点的に取り組む具体的な内容について記載していくのか、理念や基本的な指針について記載していくのかについて、皆様のご意見をお聴きしたいと思います。

(鈴木委員)

個別的な内容より、本市の子育てに対する考え方が出ているような理念的な内容を記載したいです。今月号の広報はままつの市長コラムで、「浜松市は民間が頑張ることによって発展してきた唯一の政令指定都市であるが、最近では創業家精神がなかなか現れてきていない」という指摘がありました。子どもたちが自分の将来を自分の力でつかむことができる人づくりを目指していることを発信するために、ある程度理念的なもの、「浜松はこのようなまちづくり、人づくりを目指します」という内容を盛り込みたいです。

(渥美委員)

基本的には賛成です。理念を明記することが大事だと考えます。私は昨年、教育委員になって「心の耕し」という言葉の意味するものを理解しました。抽象的な理念になると、市民は誰かに説明を求めないと分からないと思います。理念の後に、サブタイトル的な若干の具体的なことを例示的に挙げないと、大綱が大綱としての意味を持たないので、その点の配慮は必要だと思います。

(石田委員)

私も 3、4 項目の理念と、それに対しての説明・内容という形にするべきだと思います。行政職員や教職員だけが理解しているのではなく、市民も見てすぐ理解できるようなものとしたと思います。

(太田委員長)

今回の大綱は、浜松市で生まれてから年をとって亡くなるまでの一生に対するものですので、個人的には子ども時代だけではなく、大人になってからでも年をとってからも変わりながら人はつくられていくということから、「人づくり」を表に出したいです。

3、4 項目と、各項目に市民が分かりやすいように内容を記載すれば、お年寄りまで分かるものになると思います。

(鈴木市長)

抽象的な、一般的な言葉だけで作っていくと、どの自治体の大綱も同じようなものになる可能性があります。「進取の気性をもった子どもを育てる」という言葉を「本市の伝統精神であるやらまいか精神を持った子どもを育てる」とすれば、浜松らしさがそこに出てきます。このようなものを工夫して入れた方が浜松らしい大綱になるのではないかと思います。

(石田委員)

資料 1 の大綱の定義の中に「国の基本的な方針を斟酌しながら、地域の実情に応じ」という文言があ

ります。私も今月の広報はままつを見て、政令市の中でも、県庁所在地でもなく大都市近郊でもなく発展してきたのは北九州市と浜松市だけで、北九州市は「官」の力で発展してきた、浜松市は「民」の力で発展してきたことを考えると、浜松の良さや浜松らしさを強調していきたいという想いがあります。

3 月に退職された先生が「『浜松の教育』ではなく、『浜松教育』をこれからも推進してほしい」とおっしゃいました。どの地域のどの自治体に当てはめても通ってしまうような内容ではなく、浜松らしさと浜松の良さを出したものにしていきたいです。

(渥美委員)

皆様の意見に全面的に賛成です。1 つの視点として、明治維新以来国民全体のレベルを高めるために、最低限の知識・教養を身に付けさせる、ある問題に対して共通の正解を出すという公教育が続いてきました。2020 年のオリンピックの年に大学が大きく改革され、自分の頭で考える柔軟性や表現力が必要となっています。また、答えが 1 つでない時代に入っています。浜松生まれの自分は、どうやって浜松に貢献できるか、どうやって世界に羽ばたいていくか、そうした視点を持って自分の頭で考えてもらいたいということからすると、皆様が発言された事柄は、非常に意味を持つことであると考えます。

<大綱に盛り込む内容について>

(事務局) 資料 2、3、4 説明 質問なし

(児玉教育長)

先ほど A4 用紙 1 枚でコンパクトで骨太のものをということになりましたので、イメージ的には資料 2 のような形になるかと思います。この中にこういった内容を盛り込んでいくかについて、皆様のご意見をお聴きしたいと思います。

(渥美委員)

教育委員会としては、第 2 次から第 3 次教育総合計画へと続く積み重ねを活かしていく視点が重要だと思えます。教育総合計画の中身を見ても、十分重要的なことが書かれています。市長の考えも十分聴いた上で、新たなものを盛り込むことは一向にかまわないと思えますが、積み重ねを大事にする視点が重要だと思えます。

(太田委員長)

私は、第 3 次教育総合計画の「人づくり」という言葉が非常に重要だと思っています。教育総合計画の継続性を大切にしたいので、渥美委員の意見に賛成です。

(鈴木委員)

「人づくり」というキーワードが浜松市教育総合計画の中で継続して使われてきておりますし、資料 3 の浜松市未来ビジョンの都市の将来像の中にも記載がありますので、本市の教育及び文化という全体を考えた大綱においても、キーワードは「人づくり」になると思えます。その中で教育委員会や市長事務局で何をするかや、ゆりかごから墓場まで市民全体の人づくりを行うことを示していきたいです。

ただ、子ども目線で見た方が伝わるのか、本市の教育及び文化という生涯学習まで含めた全体で見た

方がより伝わりやすいのか、どちらなのでしょう。私は、子どもだけではなく、浜松ではどのような人づくりをして、このような生活ができるという全体がイメージできるものにしたいと思います。

(児玉教育長)

文化も生涯学習も含んだ大綱ですので、その点も考慮していかなければならないと思います。

(石田委員)

他の自治体では、教育総合計画をそのまま大綱に位置付けるところもありますが、そうではなく、ゆりかごから墓場まで一生学び続けるという視点で考えた中で、教育の重要な時期である子どもの部分の比重を大きくしたいと思います。

(渥美委員)

皆様の意見に賛成です。教育には、子ども、保護者、教師、行政などの横の関係と、幼・少・中の縦の関係があります。教育委員会は基本的に小中学校を対象としていますが、実は教育で一番大事なのは幼少教育で、教育の投資は幼少期につき込まないとあまり効果を発揮しないというノーベル賞受賞者の学説もあります。幼・少・中の縦の関係も十分踏まえた子ども中心の考え方から、それを担う大人の決意を盛り込むと、幅広い、深い大綱が出来上がると思います。

浜松市第 3 次教育総合計画の中でも「人づくり」を中心に置いています。第 2 次教育総合計画の「心の耕し」も浜松らしく、人間の一番重要な点を突いた教育方針が打ち立てられており、大事にしたいです。人づくりは知識偏重の教育ではなく、子どもたちが社会に出た時に最も教育効果が出てくる部分です。今までの本市の積み重ねを更に高めていく工夫が必要だと考えています。

(児玉教育長)

第 2 次教育総合計画では、教育の縦軸を大事にするために、各中学校区を単位として目指す子どもの姿を話し合い、それに向けた小中一貫教育の取り組みの中へ幼稚園も入って、幼・少・中の連携、つながりができています。縦のつながりと同時に、横の広がりである地域・社会総がかりで子どもを育てるという点も入れていただきたいです。

(太田委員長)

教育長から社会総がかりという言葉が出ました。人づくりが一番のキーワードですが、その中に全市民を巻き込んで子育て・人づくりをしていくという意味で「市民協働」という言葉も外せないと思います。

(鈴木市長)

現在の総合計画などと整合を取る必要があり、それらから逸脱したものである必要はないと思います。大綱は指針となるものですから、浜松らしさを出すには、総合計画でも大事にしている創造性や進取の気性、生きる力を端的に表した浜松らしい言葉である「やрмаいか精神」を使っていければと思います。

本市は市民協働、多文化共生に非常に力を入れています。文化の多様性、違った文化・違いを認めて

いく風土が醸成されつつあることや、創造都市への取り組みなど浜松らしいキーワードを大事にしていくべきだと考えます。

(石田委員)

先ほど浜松市は民主導で栄えてきたというお話をしましたが、官主導で行政がお膳立てするのではなく、民の力を大事にする「市民協働」というキーワードは外せないと思います。現在も市民協働の視点から学校運営に協力する体制がありますが、地域によっては高齢化などで将来的に機能していかない恐れがあります。現状を活かした形で整理し、市全体でネットワーク化し、人やニーズのマッチングをすることで、子どもたちだけでなく大人も学べる仕組みができるのが私の願いです。本市は外国籍の人も多く、経済的に恵まれない子どもの貧困も問題になっていますが、そうした子どもたちを始め、お年寄りでも誰でも学べる機会が持てる段階まで発展できればと思います。企業やボランティア団体、大学などでも学ぶ機会の提供はありますが、それらを整理してネットワーク化する仕組みについて、大綱に盛り込むかどうかは別として、そのような視点も持ちたいと思います。

(渥美委員)

企業の協力も市民協働の1つの視点になると思います。世界的な製品や組織を作っていくに当たって、日本企業の教育力は非常に高いものがあります。今までは、学校を卒業後、改めて企業なりの教育をするという形がとられていましたが、企業教育で培ったノウハウや知恵を学校にフィードバックしてもらい、協力してもらおうという視点は重要だと思います。

人づくり教育とは、学校だけでなく市民も取り込んだ形でより充実していきたいという市民協働を意味するので、教育を市民へ放り投げるのかという誤解や、教育放棄であるという批判を受けないよう、教育委員会や学校が果たすべきことも、しっかり大綱の中に盛り込んでいきたいです。

(石田委員)

先ほど仕組みづくりの話をしたのですが、人づくりの基になるのは、市長が発言されたように生きる力や、やらまいか精神です。浜松はどのような人を求めているのか、どのような人に育ててほしいのかという理想像があって、それに対して市が担う役割を記載していきたいと思います。

(太田委員長)

浜松らしい言葉は出ていませんが、私なりに大綱の項目を3つ考えてきましたので、述べさせていただきます。1つ目は、「夢と希望を持ち続ける人づくり」で、子どもだけでなく、大人になっても夢と希望を生涯持ち続けることができるようにという思いからです。2つ目は、「市民総がかりによる人づくり」で、社会全体で健全に子どもたちを育成しながら、ずっと社会に関わってほしいという思いからです。3つ目は、「豊かな感性を育む人づくり」で、創造都市・浜松を目指して、あらゆる機会に、本物に出会いながら自分の感性を育てていくのが理想であるという思いからです。

(渥美委員)

夢と希望という言葉、表現を否定するつもりは全くありませんし、大綱に盛り込むことに反対するも

のではありません。ただ、私の信念、理解として、よく似た言葉として飛び交う「夢」と「志」の違いが意識されているのだろうかということがあります。「志」には、決意が含まれています。単なる願望ではありません。その中身には、周りの人たちを高める精神が含まれています。「夢」というのは自分中心で、自分になりたい、したいことですので、悪く見ると決意が少し弱く、夢はかなく消える、と思われてしまいます。志と夢の定義をそのように理解するのは間違いかもしれませんが、固い決意が伴わないと実現しないことを、教育の中で教える側が心得ておかないと、正に夢がはかなく消えてしまうことにもなりかねません。

(児玉教育長)

第 3 次教育総合計画の中でも、「夢と希望を持ち続ける」という文言があります。夢と希望を持つことは、子どもにとっての原動力となり、それへ向かうための動機付けをするのが教師の仕事であると思います。

(鈴木市長)

努力のない夢は単なる妄想であると思いますが、「志」のように定義が難解なものをどのように盛り込むかは、非常に難しいと思います。私は松下幸之助さんから「志」とは、己の利害を超える心だと言いで教わりました。また、全て利他の精神で生きるとは難しいが、心のどこかにそのようなこだわりを持つことは大事である、特に政治家や公の仕事を目指す人間はそのような気持ちを持っていなければいけない、とも言われました。私自身はとても好きな言葉ですし、大事だと思っています。

(鈴木委員)

浜松らしさ、浜松教育ということであると、「やらまいか」という言葉が、例えば大綱の項目を 5 項目作って、その頭文字を「や」、「ら」としていくと一目見て分かると思います。先ほどの広報はままつの話にもありましたが、浜松市は戦後 70 年間自立をし続けている都市ですので、これからも民の力でやっていくために、人づくりの中でやらまいか精神を引き継いでいくという内容が、市民にとって分かりやすいと思います。また、自立し続けていかなければいけないということは、人が増えていかないといけませんから、何を基準に浜松が選ばれるのか考える時に、浜松がどのような人づくりをしているかが分かる内容にできればと思います。

(石田委員)

合併 10 周年を迎え、本市の総合計画、第 3 次教育総合計画がスタートし、昨年天野教授が名誉ある賞を受賞されました。本当にいいタイミングでの大綱の策定だと思いますので、浜松らしさを盛り込んでいきたいです。

(児玉教育長)

大綱の内容について市長を始め委員の皆様の想いを出していただきました。中身は別として、大綱の名称についてご意見はございますか。

(渥美委員)

大綱の名称は、シンプルにするのか、個性を持たせるのかを含め、最後の締めくくりとなればと思います。

4 意見交換 「浜松市におけるいじめの実態と防止等の取り組みについて」

※意見交換については議事要録とし、要点のみ記載

(指導課長) 資料 5 説明

(渥美委員)

全国のいじめ認知件数は減少傾向にあるが、本市は若干増加傾向にあることについて、どのようにとらえればよいか。

(指導課長)

本市の傾向は、全国的な傾向に反するものではない。些細なことでも積極的に委員会に報告するように各学校へ求めており、今年度も小学校低学年などの報告は昨年度よりやや多い傾向である。

(太田委員長)

平成 26 年度にいじめ対策専門家チームが対応した 37 件に関して、どのように機能しているのか。

(指導課長)

専門家チームは、学校からの相談や指導課が学校を訪問する中で必要と判断した場合に対応している。様々な視点からのアドバイスをもらい、学校の指導に活かすことができたという前向きな意見が多い。

(石田委員)

今年度第 1 回浜松市いじめ問題対策連絡協議会では、どのような意見が出たのか。

(指導課長)

人権擁護委員、児童相談所、市 PTA 連絡協議会、警察、小中高の学校代表などの委員から、各組織のいじめの対応・相談の受け皿について発言していただき、お互いに確認できたのが大きな成果である。各機関の連携が浸透することが、市民総がかりでいじめを考えるためには有意義であると考えている。

(鈴木委員)

本市の平成 26 年度のいじめの認知件数について、小学校は増加傾向、中学校は減少傾向とあるが、いじめが低年齢化している側面はあるのか。

(指導課長)

低年齢化している側面はある。小学校は担任が教室にすることが多いため、担任による認知が多い。教育委員会としても、教職員の感度や認知度が高まっている実感がある。

(児玉教育長)

岩手県の矢巾町で、自殺した中学生と担任教師が書いた生活日記が公表され、対応に非難が集中した。自分の学校とは無関係だと決して思ってはならないと夏の研修会などを通して伝えたところである。

資料の態様別いじめの被害経験では、いじめられたと思えば 1 件とカウントされるが、いじめの程度については見えてこない。被害経験の態様について、複合しているケースもあるのではないかと。

(渥美委員)

無視や仲間外しは、恐らく多くの子どもたちが大なり小なり経験していることである。保護者や教職員がそれに気が付いているかが重要な問題である。学校ぐるみでチームとして気軽に相談できる雰囲気づくりを心掛けないと、いじめはなくなる。

(石田委員)

子どもは大人の姿の鏡であり、大人の姿勢を変えることも子どもに与える影響が大きいと考える。

学年を追うごとに保護者に相談しなくなる傾向にあるとのことだが、子どもたち同士で仲間に相談し、自浄作用を大事にしながらいじめについて考える「ピア・サポート」の本市の取り組み状況について知りたい。

事務局注：ピア・サポートの定義

子どもたちの対人関係能力や自己表現能力等社会に生きる力がきわめて不足している現状を改善するための学校教育活動の一環として、教師の指導・援助のもとに、子どもたち相互の人間関係を豊かにするための学習の場を、各学校の実態や課題に応じて設定し、そこで得た知識やスキル(技術)をもとに、仲間を思いやり、支える実践活動をピア・サポート活動と呼ぶ。(日本ピア・サポート学会 HP からの引用)

(鈴木市長)

対策の仕組みが整えられていても、常にこの問題を意識していなければ、いざという時に備えられない。最終的には、教職員の感度、能力、人格などによる部分があり、矢巾町のことで、ノートの悲痛な訴え・叫びを担当だけではなく全体として迅速に対応できなかったのか、問題意識を持った。常にこのような場を設けて議論をしたり問題意識を共有し合ったりする作業が大事だとの思いから今回このテーマを提案した。

(太田委員長)

学校の組織としての情報共有が一番大事だと考える。小学校の 4、5 年生の時に周囲を支配していた子が、中学生になって逆にいじめられるというパターンが割とあるため、小学校の時に対策をすることである程度防げるのではないかと。

中学校ではいじめ認知件数が減少傾向であるが、ネットによるいじめを調べればかなり増加しているのではないかと。本市はネットパトロールを行っているが、SNS の対策なども考える必要がある。

(渥美委員)

見つかっていないいじめがたくさんあるという前提が必要である。教職員に相談すると、いじめが露見し、子ども同士で気まずい思いをすることも。いじめの内容をしっかりと把握するには、相談してもらう必要がある。中学に進んでからも小学校の教職員に相談できる仕組みを作るなど、組織としての対応の仕組みや体制を整えているかという視点が必要である。また、教職員と保護者が二人三脚で対応

する体制ができているかという視点も重要である。

(指導課長)

「ピア・サポート」について、昨年度の研修会で江之島高校の山口先生に講話をお願いし、昨年度から今年度に掛けて 6 校程度の学校で指導していただいている。中学校を中心に研修が開催されるなど、取り組みが広がりつつあり、成果も得られつつあると感じている。

ネットのいじめについて、ネットパトロールでは SNS によるいじめは調査できないのが現状である。実際に SNS のいじめの事例があり、慎重に対応している。

(児玉教育長)

教師が鈍感であってはならないということが根本にあるが、いじめは許されるべきものではないことを子どもたちに何度も伝える必要がある。学校全体で情報を共有化できるよう教育委員会の事務局としても各学校を指導していく必要があると感じている。

(石田委員)

家庭教育、保護者の感度も下がっているのではないか。いじめに関してだけでなく、家庭教育についてすべての保護者に対して訴える機会を設けるべきである。

(渥美委員)

保護者と教職員の関係を日々構築していく努力をしないと、いざとなった時に対応できない。日々保護者としての務めを果たして初めて、いざという時に子どもが相談してくれる。教職員と生徒もこのような日々の心掛けがないといざという時に手遅れになることを、学校側、保護者側は心得る必要がある。

(鈴木委員)

教職員の多忙化という現実接する機会が非常に多く、教職員が子どもたち一人ひとりにどれだけ目が掛けられるかを考えると、酷な部分もある。一方で感度の低い教職員がいるのも事実であり、学年やチームで組織として動くことができる体制を整えるべきである。

子どもたちの心が一気に折れてしまうような時代になっている。折れそうで折れないような竹のような心を養い、今置かれている状況をどのようにして打開するか考える心を伸ばす教育が必要である。

5 閉会

(事務局)

次回の会議は、大綱の最終確認を予定し、10 月頃の開催を予定しています。